

第5学年2組 社会科学習指導案

公開授業Ⅱ 場所 5年3組教室 指導者 安倍 堅介

1 単元名 届けよう！ラジオの災害放送 ～自分たちの暮らしを守る最適な放送とは～ (情報を伝える人々とわたしたち)

誰もが情報の送り手・受け手になりうる現代の情報化社会。子どもたちはこれまでの経験から情報を受け取ることはあっても、その情報が放送し伝えられるまでの送り手の工夫や努力には目が向きにくいのではないだろうか。これは送り手として情報を収集・選択・加工して発信する経験が少ないことも要因であると考え。本学級の子どもたちにおいても、テレビ・ラジオの放送局などの報道機関は世の中に情報を伝える役割があると一面的な捉えに留まっているように見受けられる。そのような子どもたちに対して、報道は正しい情報を広く伝達すること、情報の伝達のみならず人々を元気づける側面があること、話し方の工夫を行うなどしてより鮮明に伝えようとしていること、といった報道の多様な役割に気付いてほしいと切に願う。

本実践ではラジオ放送の意義について調べ話し合うことを通して、情報の送り手・受け手として大切なことについて考える活動を中心に設定する。その際、特に災害放送に焦点化することで、正しい情報や人々を元気づける内容を放送することや伝え方の工夫をすることで情報を鮮明に伝えようとする事等、報道の役割に迫る姿を目指す。

2 単元について

- (1) 本単元では我が国の産業と情報との関わりについて、情報を集め発信するまでの工夫や努力に着目して、聞き取り調査等で調べまとめ、放送産業の様子を捉え国民生活に果たす役割を表現することを通して、放送などの産業は国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解することをねらいとしている。

本実践では、ラジオ放送の意義について調べ話し合うことで、情報の送り手・受け手として大切なことについて考える活動を中心に学習をすすめる。その際、災害放送を中心に学習をすすめることで、より迅速性や正確性が求められることに加えて、人々を元気づける内容を放送すること（以下、共感放送）、聴取者のニーズに合わせて時期に応じた内容を放送していること等に気付いていこう。また、子どもたちがラジオ放送の意義について理解を深めた上で、ラジオの災害放送を作成し熊本シティエフエムの方に提案し、本単元での学びを発揮する機会を設定する。この単元で目指す社会と関わり続ける姿は以下の通りである。

ラジオ放送において、迅速性や正確性に加えて、共感放送や時期に応じた内容、話し方の工夫を行うことによさに共感し、自分たちの作成する災害放送に生かし、報道の役割に迫る姿。

- (2) 子どもたちは自然災害の発生場所や時期、暮らしを守る対策について学習している。本単元の学習は、中学校でのマスメディアの機能を理解し、民主政治との関わりを考える学習につながる。
- (3) 本単元に関する子どもの実態は次の通りである。(調査人数：36人)
- ① ラジオ放送は生活に役立つと考えている子どもが32名、役立たないと考えたのが4名であった。前者は主に「災害時に電源がなくても聞くことができるから」、後者は主に「音声だけなので分かりにくいから」という理由を挙げていた。
 - ② 報道の役割について、情報を知らせることと考える子どもが17名、迅速性や新規性について考えている子どもが4名おり、その役割に対して一面的な捉えが多い傾向があると見受けられる。

3 単元の目標

- (1) 放送産業は国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解することができる。
- (2) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などの過程に着目して、放送産業の様子を捉え、国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。
- (3) 我が国の産業と情報との関わりについて予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、多角的な思考や理解を通して主体的に課題を追究し、解決しようとしている。

4 指導計画（8時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 学習の見通しをもつ。	○ テレビ放送と比べ聴取時間が短い中、ラジオ放送はなぜなくなるのか話し合い、聴取者の立場からラジオ放送の意義について関心をもてるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ラジオ放送ならではのよさとは？</div>	【主】ラジオ放送や聴取者の思いに関心を持ち、今後の活動に対して見通しをもっている。（観察）
2 3 7	2 ラジオの災害放送の意義について追究する。 3 災害放送を考え、提案する。	○ 「災害時にラジオ放送が役立つのは電源の面からだけだろうか」問いかけ、別の側面について考えられるようにする。その際、「熊本地震後の各 ICT メディアの位置付け」を提示し、テレビ放送と比べながら情報の迅速性について考えたり、問いを生み出したりできるようにする。 ○ 熊本シティエフエムの方へ聞き取り調査を通して、ラジオ放送の制作過程や携わる方の工夫を捉えられるようにする。 ○ 情報を活用する際に大切なことについて考えることを通して、送り手・受け手として多角的に捉えられるようにする。 ○ 災害放送でアンパンマンのマーチが流された理由を考えることを通して、人々に安心感を与える内容や聴取者のニーズに合わせて放送している等ラジオ放送の意義について考えを深められるようにする。（本時4/8） ○ 附属小学校周辺で大規模な地震の被害があった場合を想定して、どの時期にどのような情報を発信すればよいか考え、災害放送を制作できるようにする。	【知】放送産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。（発言、振り返り） 【思】情報を集め発信するまでの過程に着目して、放送産業が国民生活に果たす役割を考え、表現している。（発言、振り返り） 【思】情報の受け手の立場に着目して、ラジオ放送の意義について考えを深めている。（振り返り） 【主】見いだしたラジオ放送の意義を踏まえて災害放送について考えている。（観察、提案シート）
8	4 学習のまとめをする。	○ 本単元の学習をラジオ放送の意義に着目して振り返ることで、概念的知識を中心に学びの足跡を作成できるようにする。	【知・思】見いだした概念的知識を中心にまとめることができる。（学びの足跡）

5 本時の学習

(1) 目標

災害放送でアンパンマンのマーチが流された理由を考えることを通して、安心感を与える内容を発信することや聴取者の必要な時期に必要な情報を発信していること等ラジオ放送の意義について考えを深めることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿・☆集団で学び深める姿
10	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ラジオは様々な立場の方の生活に役立っていたね。 ○ 送り手として正確さ、素早さを大切にされていたね。 ○ どうして、アンパンマンのマーチなの？ ○ 災害の放送なのに、明るい曲を流しているね。 ○ その時の雰囲気合っていないと思うけれど…。 ○ 災害から時間が経った後のラジオ放送ではないかな。 ○ 発生してすぐは、あせったような放送だと思うよ。
10	2 アンパンマンのマーチが放送された理由を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明るい曲だから、元気が出てきそうだね。 ○ 避難している子どもたちのためじゃないかな。 ○ 発信する人は避難所で心配な気持ちを和らげようという思いがあったと思うな。 ○ 子どもだけではなくて、大人も前向きな気持ちになりましたと資料にあるよ。 ○ リスナーからの声で音楽をかけたこともあったんだって。ラジオ放送は受け手の声も届くんだね。
15	3 災害発生からの時期に合った災害放送の内容について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンパンマンのマーチは災害が発生してすぐの放送ではないと思う。 ○ 確かに。音楽を聴いている余裕はないはずだね。 ○ まず命を守るための行動を放送するんじゃないかな。 ☆ 災害発生直後は、こんな行動をしてくださのような内容が必要だと思う。テレビ放送でも言われるよね。 ☆ 他にも、この地域でこんな被害が出ているみたいな情報も避難に役立つはずだよ。 ☆ 数時間後では、さっきの被害のことも必要じゃないかな。聞き逃した人のためにも、同じ内容を何回も放送することも大切だと思う。 ☆ 数日後になると、生活に必要な水や食料のことを伝えたり、元気が出るように曲を流したりすることも大切になってきそうだね。 ☆ 放送する時期で内容が変わっていると思うな。
10	4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の送り手は、受け手がその時に必要な情報を発信することで被災した人の暮らしを守っているんだね。自動車の学習の消費者のニーズの話とつながるね。 ○ 受け手のニーズを考えて提案しよう。 ○ 私は人々を元気付ける気持ちも一緒に届けたいな。



災害時にラジオ放送が役立つのは電源の面からに加え、より高い迅速性と正確性も関係していると気付いた子どもたち。本時では、災害放送でアンパンマンのマーチが流された理由を考えることを通して、ラジオ放送の意義についてさらに考えを深める姿を目指します。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 前時までに学んできたラジオ放送の意義について出し合い、学習の深まりを価値づけることで、ラジオ放送に対する捉えの変容を自覚できるようにする。
- 熊本地震当時のラジオ放送の音源の一部（アンパンマンのマーチ）を流し、その放送に納得したか・違和感をもったか子どもに意思表示をさせ、その理由を尋ねる。その上で、「被災した子どもを元気付けるためではないか」や「災害から時間が経過した後の放送ではないか」という考えを全体に広げることで、以下の課題を設定する。

地震後のラジオ放送でなぜアンパンマンのマーチが流されたのだろうか？

- 子どもたちは曲の内容や雰囲気から避難している子どもたちに向けての放送であると考えたろう。情報の受け手という立場に着目していることを価値付けた上で、他に元気付けられた立場の方はいないだろうか問いかけたり、熊本地震当時のリスナーの声を資料として提示したりすることで、人々を安心させる内容を放送すること・ラジオ放送の双方向性のよさを感じられるようにする。
- 子どもたちが送り手として人々を元気付ける内容を放送する共感放送のよさに気付いた上で、これはいつ放送された音源だと思うか問いかけることで、放送する時期と内容について立ち止まりを促す。その際、「災害発生直後ではない気がする」と考える子どもの思いを広げることで、以下の課題を設定する。

【教材・教具】

- 熊本地震当時のラジオ放送の音源
- 熊本地震当時のリスナーの声
- 災害放送に関する調査（保護者向け対象）

災害発生後、いつ・どんな内容の放送が必要だろうか？

- グループで災害発生からの時期を災害発生直後、発生から数時間後、発生から数日後に分けて考えさせることで、放送時期と内容のつながりに気付くことができるようにする。その際、考えることが難しいグループには、避難しようとしている人や避難している人がどのような情報を求めているのか受け手の立場や災害放送に関する調査から考えていくよう促したり、自分たちの考えに満足感を得ているグループには、なぜ時期に合った内容を放送する必要があるのか問い返したりすることで、聴取者のニーズに合った放送をする大切さを自覚できるようにする。
- 振り返りを行う前に、本時で明らかになったラジオ放送ならではのよさや情報を活用する際に大切なことについてグループで話す機会を設定することで、どんなことを振り返るとよいか振り返りへの見通しをもつことができるようにする。
- ラジオ放送についての捉えがさらに深まったことを価値付け、見いだしたことを生かしてラジオの災害放送を作成する活動を提案し、学びを発揮する期待がもてるようにする。

【評価】

安心感を与える内容を発信することや時期に合った内容を発信する等ラジオ放送の意義について考えている。

（発言・振り返り）

